

洲本市域学連携事業10周年記念シンポジウム -冒険し続ける地域と人の作り方-

域学連携10年の批評と、今後10年を見据えた提言

大学や企業と共に歩む地域団体の活動に関する検討

域学連携事業は 地域に何をもたらしたか



洲本市企画課 地域おこし協力隊 小林

発表内容

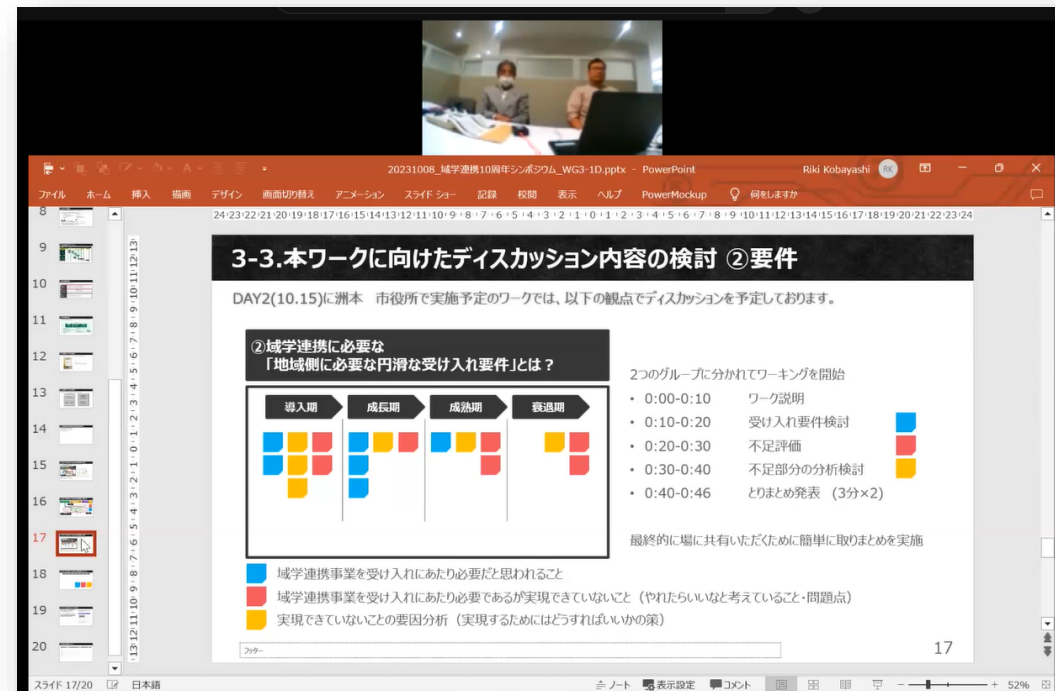
- 1.ワーキング検討プロセスのご紹介
- 2.域学連携事業の地域評価
- 3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項
- 4.今後の域学連携事業への提言

10th

1.ワーキング検討プロセスのご紹介

域学連携事業に参画している地域（町内会・地域団体）や地元企業、自治体関係者とともに3日間のワーキングを実施。

WG1日目



ディスカッションワーク前の事前説明

関わった域学連携事業の取り組み
課題感の事前アンケートの実施

WG2日目



域学連携事業の地域評価
ディスカッションワークの実施

ディスカッションワーク後の
意識調査(アンケート)の実施

WG3日目



ディスカッションワークのとりまとめ
結果の共有

ワーキング検討結果方針の確認

1.ワーキング検討プロセスのご紹介

WG2日目のディスカッションワークでは、以下の2点の検討軸で進んでいきました。

域学連携事業によって
得られた地域づくりの**成果**
問題や**課題・反省点**は何か

域学連携事業で円滑な
活動を支えるために必要な
地域側の受け入れ要件は何か

1.ワーキング検討プロセスのご紹介

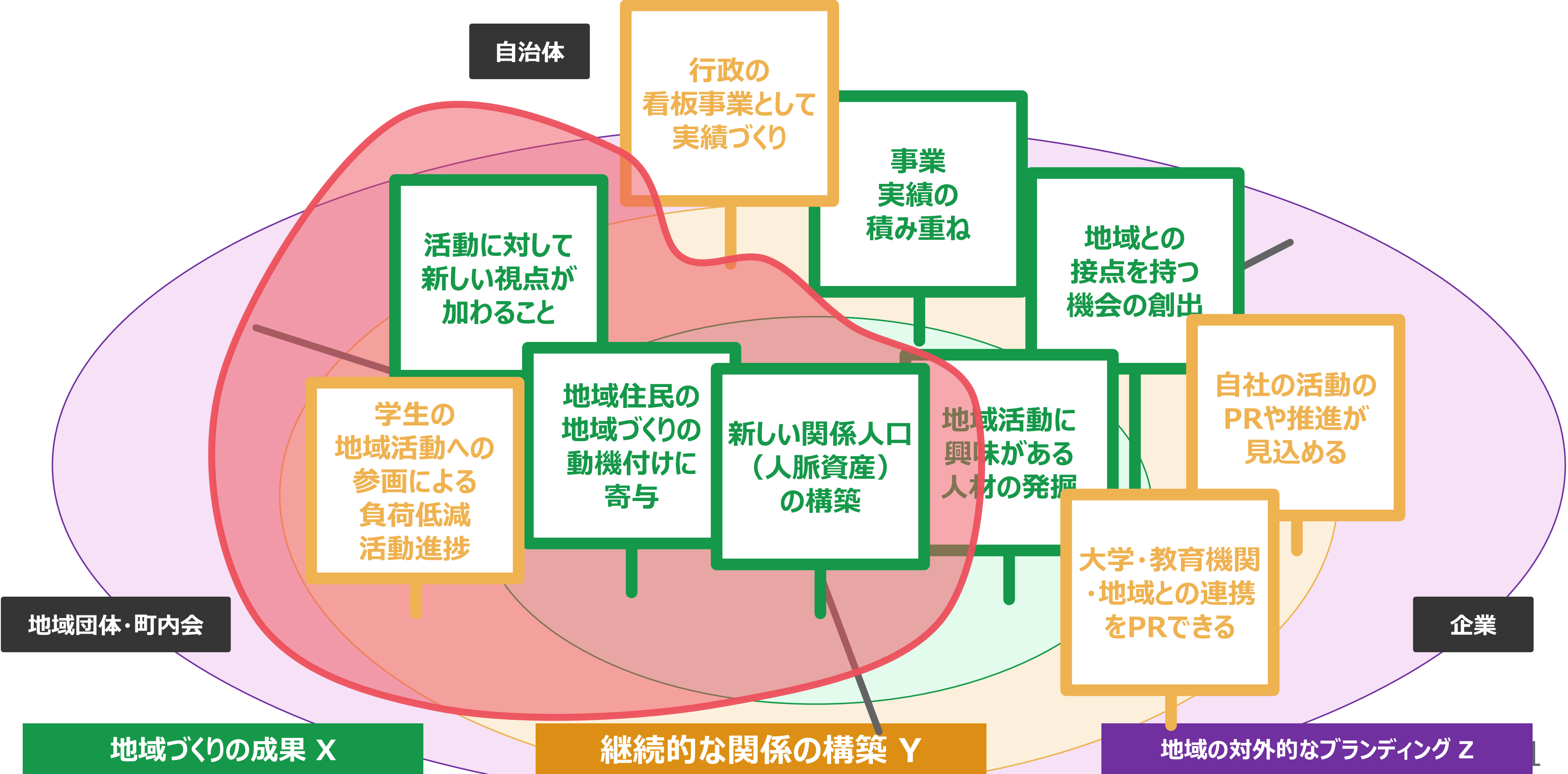


2.域学連携事業の地域評価：ワーキング結果

地域側が感じる域学連携の成果、ポジティブな側面は以下のような内容に共感が集まりました。



2.域学連携事業の地域評価：ワーキング結果



2.域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

情緒的価値
= 前を向く燃料

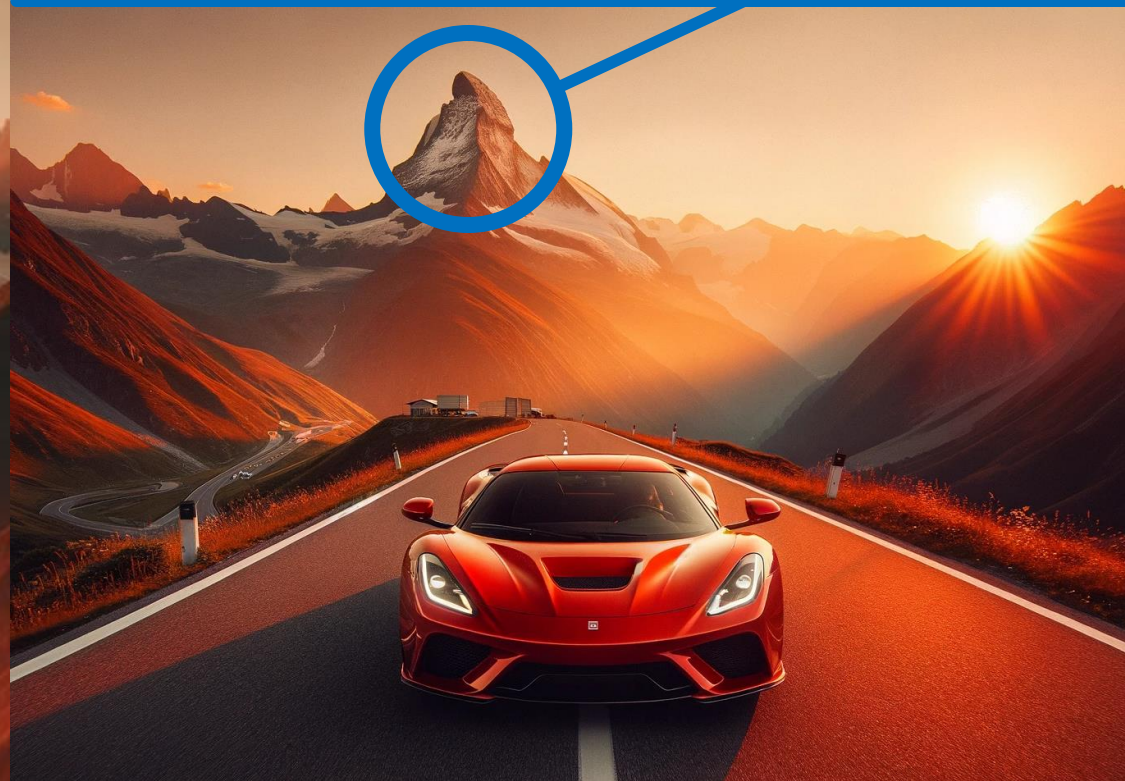


- 学生からの刺激
- 地域への誇り
- 変化・挑戦の姿勢

地域のありたい姿



機能的価値
= 振り返って見える景色
(達成したゴール/構築できたモノコト)



- 活動の進捗
- PR活動による認知
- 商品開発

域学連携事業
= 車(移動手段)

2.域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

前提：域学連携事業の成果＝測りにくいものではある

情緒的価値

域学連携事業に取り組んだ人
(地域住民、企業、自治体の関係者)が感じる
モチベーション、期待感、使命感の創造

学生からの刺激

地域への誇り

変化・挑戦の姿勢

機能的価値

域学連携事業に生み出された
具体的な経済効果や財・サービスの創造
資本（人脈・設備等）の構築

活動の進捗

PR活動による認知

商品開発

2.域学連携事業の地域評価：得られたものの具体例

情緒的価値
＝ 前を向く燃料



淡路ロングトレイル



事業
手段)

機能的価値
＝ 振り返って見える景色
(達成したゴール/構築できたモノコト)

塔下新池ため池ソーラー発電所

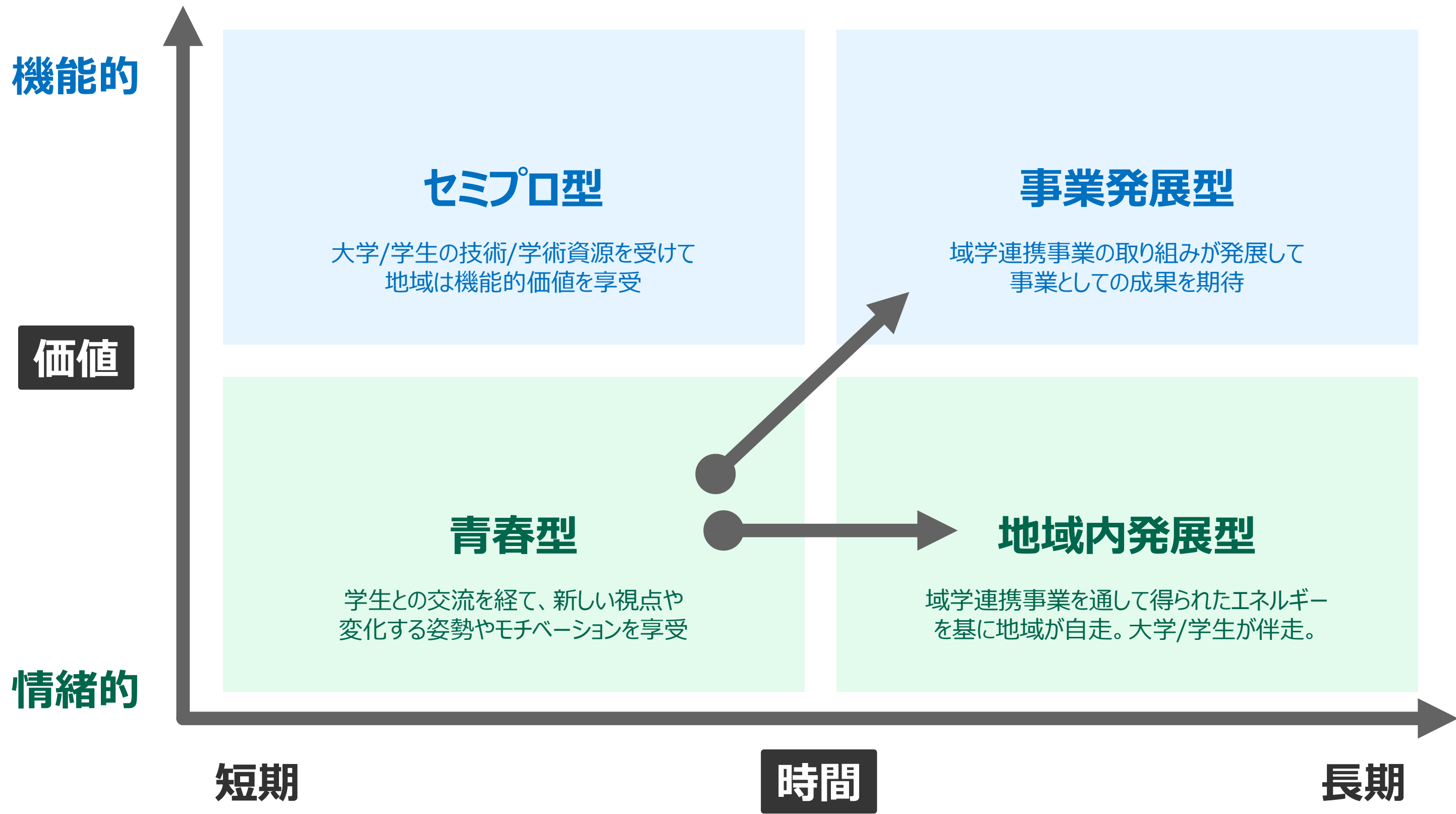


地域のありたい姿



鮎原米・米ワッフルの販売実績

2.域学連携事業の地域評価：時間軸と地域が得る価値の関係性



2.域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

地域側が感じる域学連携の課題、ネガティブな評価には以下のような内容に共感が集まりました。



2.域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

継続的な活動を支える仕組みの不足

学生の入れ替わり

地域人材の入れ替わり

域学連携で関わる「学生」が毎年入れ替わること

自治体/企業の担当者の異動
町内会/地域人材の担い手や引継ぎ人物の不在

活動背景の引継ぎ

地域の理解不足

活動の熱量のムラ

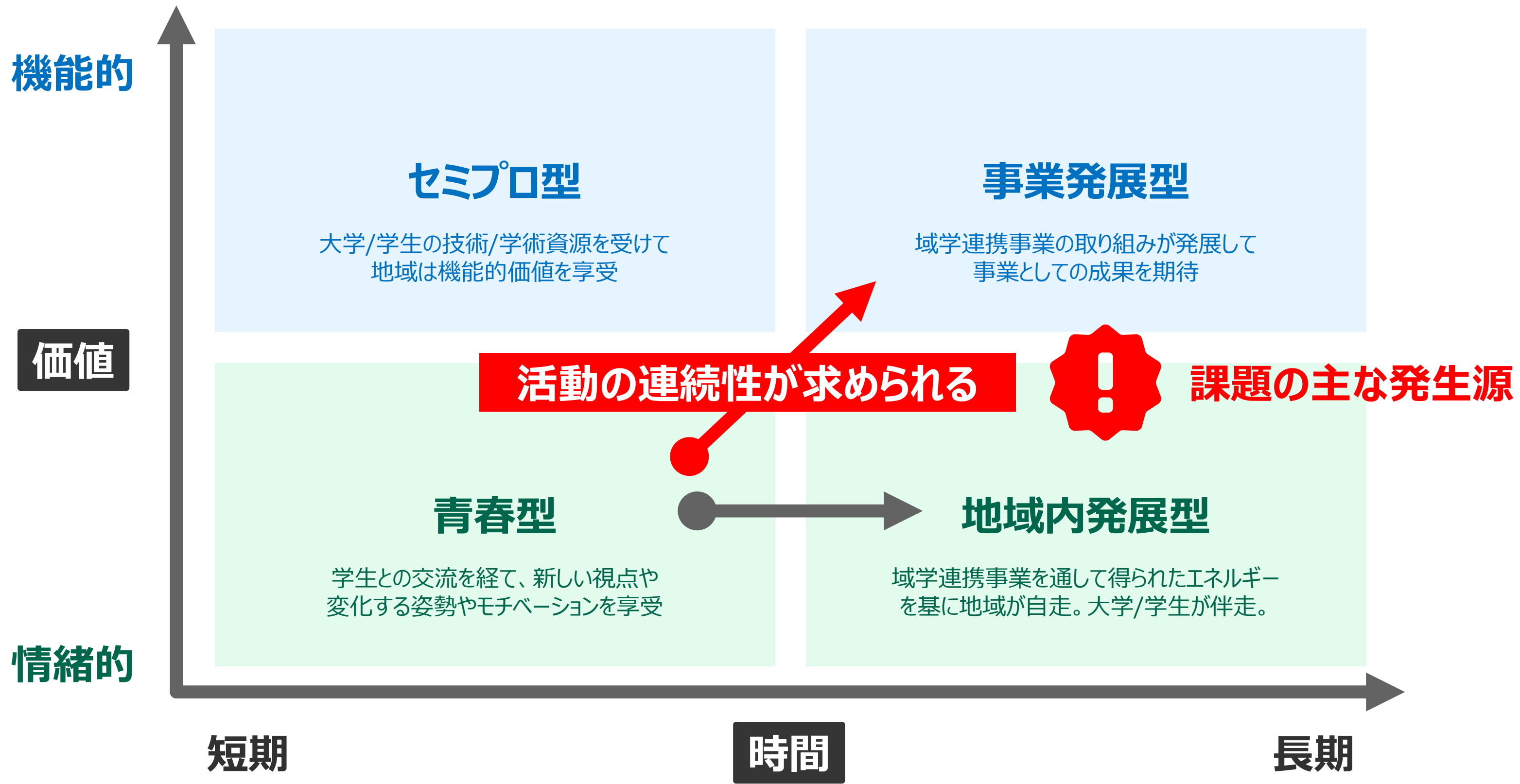
キーパーソン不足

活動へのストレス

ノウハウの消失

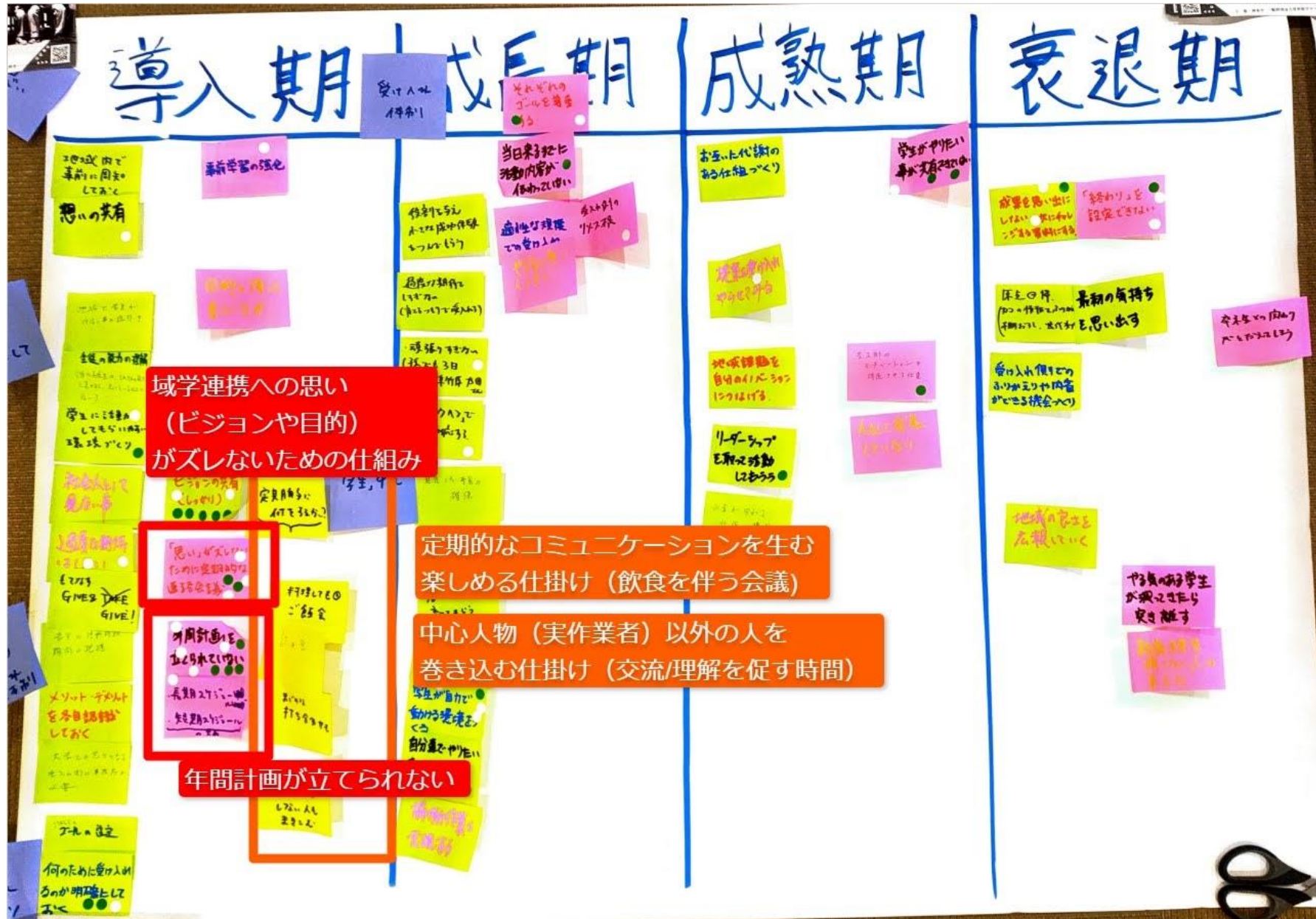
仕組み不足の状況でも、洲本市の域学連携事業が継続している背景には
強力な先導者の存在、寛容な地域住民の存在、臨機応変で柔軟な対応を受け入れる関係性のある雰囲気

2.域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）



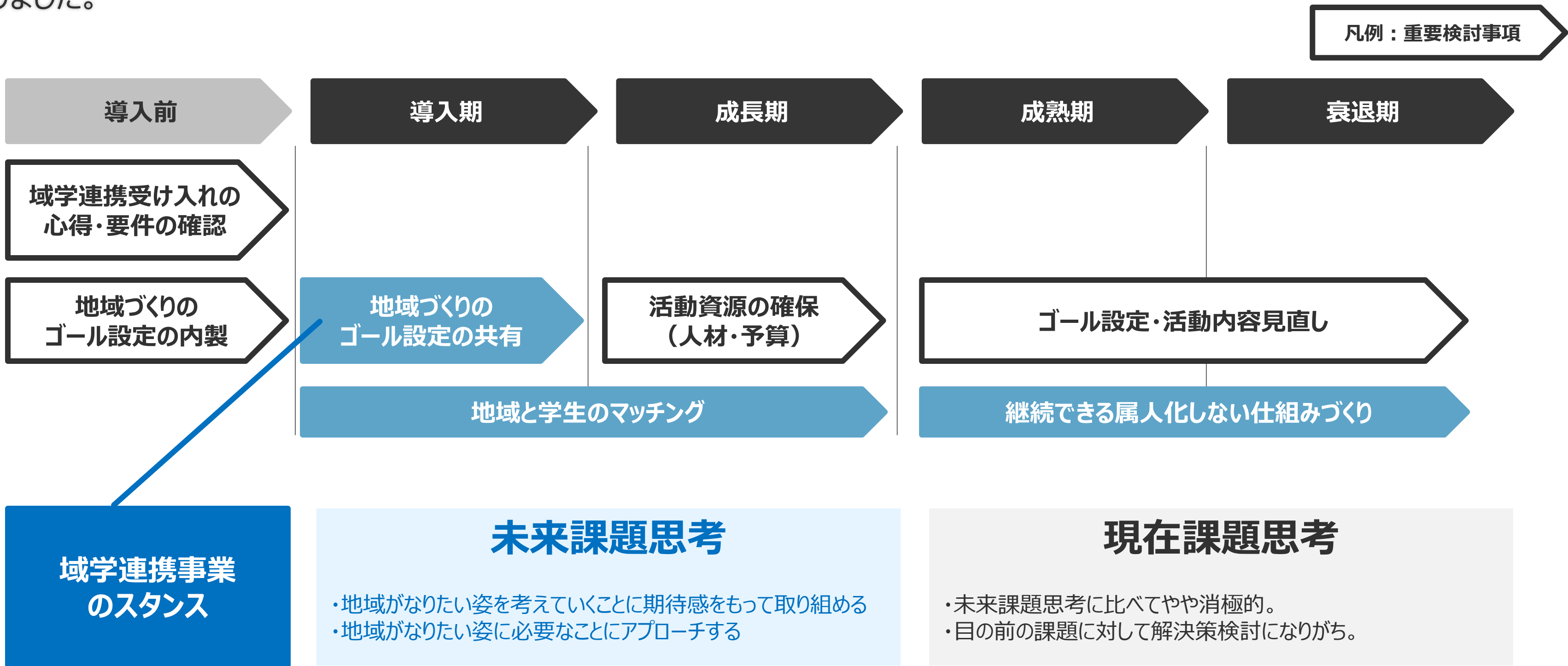
3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

域学連携事業のライフサイクルの視点から、地域側が考える重要検討事項には以下のような内容に共感が集まりました。



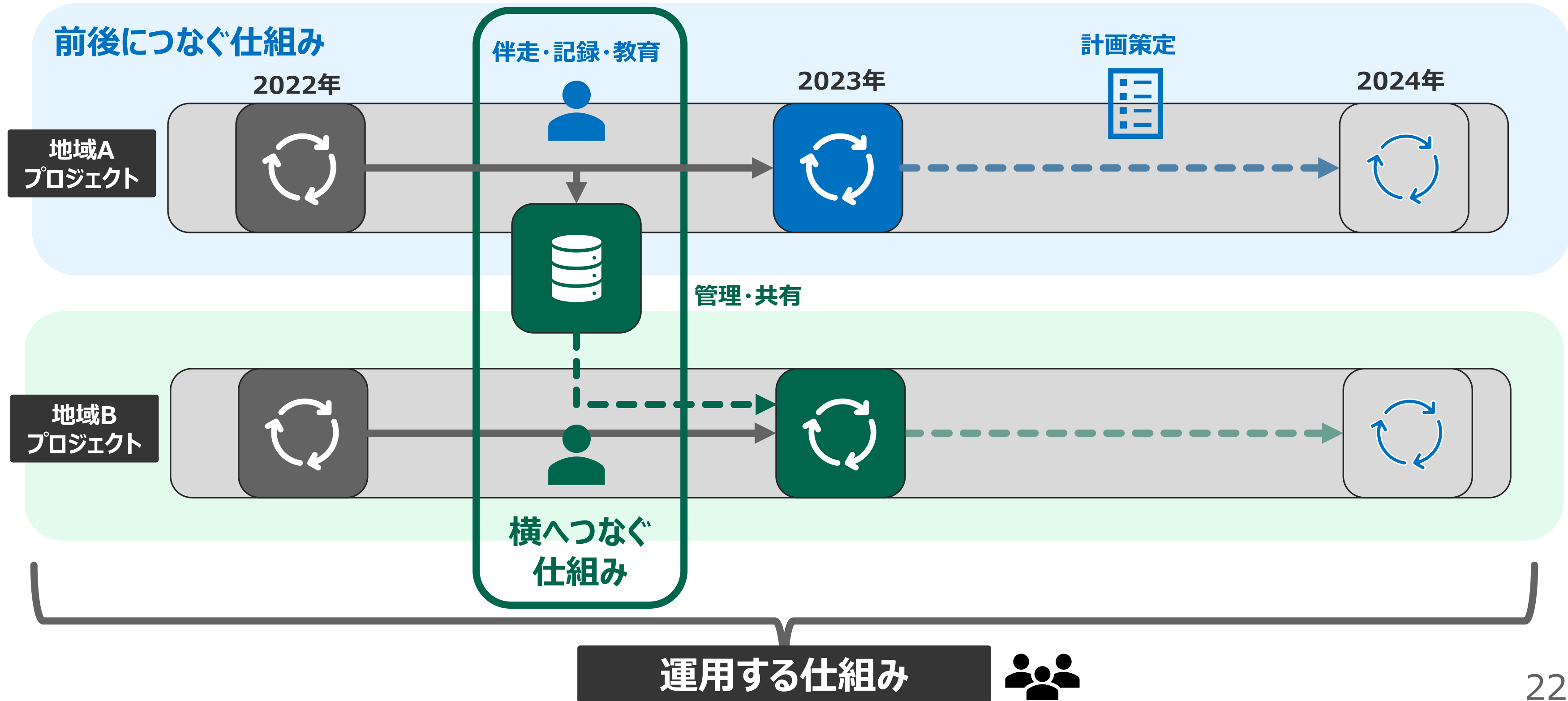
3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

域学連携事業のライフサイクルを意識したワークでは、導入期には地域と大学など、関係者のマッチングが重要との傾向が明らかになりました。



4. 今後の域学連携事業への提言

ワーキングの中で浮き彫りになった課題や、域学連携事業で地域に求められる要件・整えるべき工夫の検討結果を基に、今後の事業推進への地域視点の提言を下記のイメージで示します。



4. 今後の域学連携事業への提言

浮き彫りになった課題から求められる施策の具体的なメニュー案は以下の通り。

3つの施策案	メニュー案	詳細
前後をつなぐ仕組み	・活動の引継ぎ資料の作成	・活動の内容や関係者、活動経緯や成果物が分かるようにアーカイブとなる資料を取りまとめる（フォーマット提供や資料作成支援）
	・学生への地域活動前教育（コミュニケーションの場）	・域学連携に関わる学生に対して、アーカイブ資料を基にした事前教育の支援
	・活動の伴走支援	・マッチングやゴール設計、活動中の伴走支援
左右をつなぐ仕組み	・他活動のノウハウの共有	・他の活動のアーカイブなどを集約・共有できるプラットフォーム的な場所
	・域学連携受入前の地域間教育	・新規に域学連携を取り掛かる地域や団体（企業）向けに心得的なものを共有する教育機会の提供（フォーラムやコミュニティのような場所）
運用する仕組み	・各プロジェクトのアーカイブ資料の管理・運用	・各プロジェクトの活動記録や暗黙知の言語化支援を行い、管理運用する役割
	・伴走支援者の割り当て	・伴走支援をする者の割り当てや支援者のサポート
	・地域おこし協力隊の活用 ・地域活性化企業人	・地域おこし協力隊が伴走者として機能 ・地域おこし協力隊OBOGになって伴走者へ

洲本市域学連携事業10周年記念シンポジウム -冒険し続ける地域と人の作り方-

域学連携10年の批評と、今後10年を見据えた提言

ご清聴ありがとうございました

